

73 カワネジガイ

(ヒラマキガイ科)

兵庫県ランク:A

Camptoceras hirasei

環境省ランク:CR+EN

種の概要

東北から九州にかけて広く確認されていたが、再確認はほとんど不可能な状況である。近年は関西地方を中心に新たな産地が確認されているものの、公表されることによって集中的な採集圧が加わったり、改修工事によって環境が改変されるなど、継続が危ぶまれている。ため池などの水面付近から水深1m程の範囲に生息する。マコモやガマ、オニバスなどの茎のほかに、池底に堆積した落葉や枯れ枝などに付着している。殻長10mm、殻径3mmほどの著しく細長い巻きである。螺層は3.5~4層で、螺管の肩部は角張っている。殻は半透明な汚れた黄白色であり、生時は付着物で薄く覆われている。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○	○		△	○	○		○

県内分布

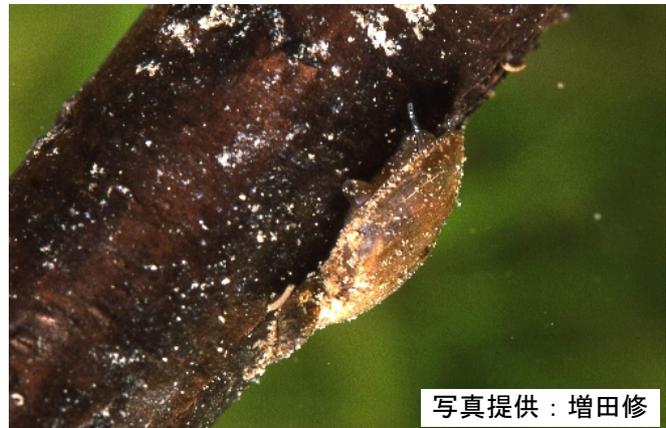
加古川市、加西市、姫路市

県内における生息状況及びその他特記事項

ランク変更なし。1994年に加西市、1997年に加古川市、2003年に姫路市のため池で確認しているが、いずれの産地も後の確認ができない。特に、姫路市のため池では全国的に例を見ない多産状況であったものの、落水工事によって数年間水入れがなく、再確認できないまま現在に至っている。いずれも、それなりに改修が施されたため池に生息していたことから、必ずしも自然度が高い池でなくても生息する。

保護上の留意点

水に透明感のある、富栄養とならない(おそらく珪酸分が多い)水質や、付着基盤となるマコモなどの挺水植物の群落が必要である。したがって、全面護岸をしないこと、水生植物の生える陸域から水中への緩斜面を存在させること、富栄養化を避けるために池干しを行い環境維持に努めることが望ましい。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修